

「第2期とやま未来創生戦略」(案)に対するご意見の概要及び県の考え方

番号	ご意見の項目	意見の概要	ご意見に関する考え方
1	分野横断的な観点-Society5.0の実現に向けた未来技術の活用、生産性向上	人口減少の中にあっても、現在の経済・行政サービスの水準はできるだけ維持する必要。 情報を収集するための端末を整備、行政サービスのうち、ごみ収集車や除雪車、危険河川の水位管理や小学生の通学時の安全管理、お年寄りの状況確認など、あらゆることに対応できるスマートシティ化に向けて、行政と経済界が一緒になって進めていくことが大切。 このことは、交通システム全体における自動運転への対応にも関係してくる。県主導で、県全体へのスマートシティの浸透拡大を鋭意進めていただきたい。	「第2期とやま未来創生戦略」(案)においては、「④ICT活用による県民生活の利便性の向上や新しいライフスタイル・働き方の推進」(P37)について記載しております。また、分野横断的な観点として、「Society5.0の実現に向けたIoT・AI、5G等未来技術の活用、生産性向上等」(P10)を目指すこととしており、いただいたご意見も踏まえ、官民の連携のもと、実効的な施策の検討・実施に努めてまいります。
2	基本目標1-結婚から子育てまで切れ目のない支援による少子化対策の推進	出生率を上げるには適齢期になってから考えるのでは遅いと思う。中学生・高校生のうちに「3人の子供を産むには・・」という教育が必要ではないか。	「第2期とやま未来創生戦略」(案)においては、「結婚、妊娠・出産に関する正しい知識や赤ちゃんふれあい体験などにより生命の尊さを学ぶライフプラン教育等を推進」(p13)することについて記載しているところです。いただいたご意見も踏まえ、結婚を希望する男女の出会いの場の提供やライフプラン教育の充実など、実効的な施策の実施に努めてまいります。
3	基本目標2-移住・定住の環境づくり、応援人口の創出・拡大等	東京⇄富山が2時間ならば、夫が東京に単身赴任したとしても、平日は母子で普段通りの生活を送り、週末は家族そろって海や川や図書館へ出かけるなど、自然たっぷりの環境の中で生活できることをアピールする。そして月に一度の帰宅の片道でも補助することにより、富山大好き人間が増えるのではないか。	「第2期とやま未来創生戦略」(案)においては、「本県への移住や二地域居住、副業・兼業を希望する社会人を対象としたフィールドワークの実施など、将来的な移住に向けた応援人口の拡大」(P29)について記載しているところです。二地域居住とは、東京をはじめ、複数地域に生活・就労の拠点を有していることであり、将来的な移住も期待できます。 いただいたご提案・意見も踏まえ、適切にニーズを把握しつつ、実効的な施策の検討・実施に努めてまいります。
4	基本目標3-高齢者等が能力を発揮し活躍できる社会の実現	「エイジレス社会(生涯現役社会)」の実現に向け、リーダー養成塾等の開催等により、地域社会の担い手となる元気な高齢者等のエイジレス人材を育成することに賛成。自身も長年の経験を活かして、地域の女性、親や子のために活動しているが、これからも続けたい。高齢者に活躍できる場があることは、結局は健康寿命の延伸につながる。	「第2期とやま未来創生戦略」(案)においては、高齢者の社会活動への参加促進を通じたエイジレス人材の育成(P32)について記載しているところです。いただいたご意見も踏まえ、引き続き、元気な高齢者が活躍するための支援、健康寿命の延伸など、実効的な施策の実施に努めてまいります。
5	基本目標4-人生100年時代を見据えた人づくり	まずは子供たちに富山を大好きになってもらうような教育が必要ではないか。	「第2期とやま未来創生戦略」(案)においては、「県民一人ひとりが、ふるさとの自然や歴史、暮らし、産業等を学び、理解を深めることによる、ふるさと富山に対する誇りと愛着を育む取組みを推進」(p43)について記載しているところです。いただいたご意見も踏まえ、実効的な施策の実施に努めてまいります。
6		「人生100年時代」を見据え、地域の生涯学習センターで高校生と共に学ぶ共学講座に参加している。これからも、多様な学習の機会や場を選択できる支援を続けてほしい。	「第2期とやま未来創生戦略」(案)においては、「『人生100年時代』を見据え、県民一人ひとりが、生涯学習講座など、ライフステージに応じた多様な学習の機会や場を選択できるように支援」(p42)について記載しているところです。いただいたご意見も踏まえ、生涯にわたる学びの推進に向けた環境づくりや、実効的な施策の実施に努めてまいります。
7	基本目標4-持続可能で安心して暮らせる地域の環境づくり	食品ロス削減につながる食生活の啓発運動を、あらゆる機会を捉えて実践していきたい。	「第2期とやま未来創生戦略」(案)においては、「全国に先駆けた県食品ロス削減推進計画の策定、食品流通段階における3分の1ルールなどの商慣習の見直し、食品ロス削減につながる食生活の啓発など食品ロス・食品廃棄物の削減に取り組む」こととしているところです。 食品ロスの削減は、県が取り組むSDGsの推進にも資するものであり、いただいたご意見もふまえ、関係団体等と連携しながら、あらゆる機会を捉えて、食品ロス削減の取組みの拡大に努めてまいります。